

中学校英語教科書における題材の取扱い

長谷川 淳一

Treatment of Topics in Junior High School English Textbooks

HASEGAWA Junichi

桜美林大学

桜美林論考『言語文化研究』第7号 2016年3月

The Journal of J. F. Oberlin University

*Studies in Language and Culture*, The Seventh Issue, March 2016

キーワード：中学校英語教科書、学習指導要領、題材、国際理解、国際協調

### **Abstract**

It says that in COURSE OF STUDY for Junior High Schools Foreign Languages (English) with regard to teaching materials, teachers should take up a variety of suitable topics in accordance with the levels of students' development, as well as their interest, covering topics that relate to issues like the daily lives, manners and customs, stories, geography, history, traditional cultures and natural science of the people of the world, focusing on English-speaking people and the Japanese people.

In this paper, the main comparison was made between 2002 Junior High School English Textbooks and 2012 Junior High School English Textbooks specifically in terms of topics of teaching materials and some suggestions were made in order to deep the international understanding from a broad perspective and cultivate a spirit of international cooperation.

## 1. はじめに

文部科学省では、2008年3月に中学校学習指導要領の改訂を行った。2008年版中学校学習指導要領の基本方針は、以下の4つにまとめられる。

- ① 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に育成するための指導を充実する。
- ② 指導に用いられる教材の題材や内容については、外国語学習に対する関心や意欲を高め、4技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるよう改善を図る。
- ③ 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。また、指導する語数を充実する。
- ④ 中学校における「聞くこと」「話すこと」という音声面での指導については、小学校段階での外国語活動を通じて、一定の素地が育成されることを踏まえ、指導内容の改善を図る。併せて、4技能をバランスよく指導し、高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培う。

これらに基づき、2012年4月から中学校新英語教科書が使用されている。英語教科書を特色づける要素として、言語材料、言語活動、題材があげられる。本稿では、上記②で言及されている教科書における題材や内容に焦点を置き、2012年度版（2008年版学習指導要領に基づく）中学校新英語教科書の題材の取扱い状況を分析するとともに、長谷川（2002）で示された2002年度版（1998年版学習指導要領に基づく）中学校英語教科書の題材の取扱い状況と比較しながら、私見を述べる。

## 2. 学習指導要領と中学校英語教科書における題材に関する記述についての歴史的背景

学習指導要領とは、各教科の教育課程を編成する際の基準であり、文部科学省によって告示される。英語において最初の学習指導要領は、1947年の『学習指導要領英語編（試案）』である。続く1951年に『中学校高等学校学習指導要領外国語科英語編（試案）』が提示された。この2つの『（試案）』の段階では、題材に関して体系的な記述はない。1958年の学校教育法施行規則に基づき告示された学習指導要領では、言語材料、題材、学習活動の3項について指導内容を規定している。続いて1969年版学習指導要領では、教科の目標に「国際理解」が挙げられた。「内容」の構成は、高等学校では言語活動、言語材料、題材と3項から成っているが、中学校では言語活動と言語材料の2項のみで題材が削除された。ただし、「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」において「題材について」と言及している。1977年版学習指導要領でも「題材について」と1969年版同様の記述が見られる。1989年版学習指導要領では、教科の目標に再度「国際理解」が挙げられ、「指導計画の作成と内

容の取扱い」の中で、「教材、題材について」と一歩踏み込んだ記述がされている。1998年版学習指導要領では、「教材選定の観点」について触れ、2008年版学習指導要領では、教材選定において題材の選択に対する配慮の必要性について詳述している。このように、英語科における学習指導要領の変遷から題材について概観していくと、それぞれの改訂を経て、題材について言及することから、指導内容の改善を目指す上で重要な教材選択についての一般的な方針にまで幅広く取扱われていることがわかる。なお、学習指導要領に関しては、小串(2011)に詳しい。

### 3. 現行学習指導要領における題材選択についての規定

題材選択についての規定は、現行中学校学習指導要領 第2章 第9節 外国語 において次のように記されている。

英語を使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げる。

さらに、題材の選択に関する配慮事項として、以下の三つの観点が示されている。

- ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

このように、現行中学校学習指導要領では、題材の具体的な例示にとどまらず、アは、一般的な教育理念、イは、外国語の目標の一つである「言語や文化に対する理解」、ウでは、広く国際理解や国際協調の精神を養う手段として、配慮する必要のある事柄を列挙している。教材の内容や題材の選択は、生徒の英語学習への興味・関心を喚起し、動機づけを高めるといった学習指導の面からも重要な役割を担っていると述べている。

### 4. 先行研究の概観

英語教科書において、題材は重要な要素なのであろうか。McDonough and Shaw(1993)は、学習者の必要に応じるためにも、また教師の教材選択の基準としても題材は大切であると主張している。また、McGrath(2002)は、教材開発や教材評価をする際にも、題材は無視できないと述べている。それでは、中学校の英語教科書において題材はどのように扱われ

ているであろうか。青木他（2000）は、1997年度版の中学校英語教科書の全7種類、1年生から3年生用計21冊を題材の種類及び出現頻度から分析した上で、談話分析的な手法である「トピック」と「地域」の双方の視点から単元内での題材の扱われ方を分析している。分析の結果、英語教科書において、異文化の題材を含む単元が全体の半数以上を占め、言語そのものの理解に加えて、異文化理解が非常に重視されていることを明らかにしている。また、英語圏の国々と同様にあるいはそれ以上に、その他の国や日本も題材として重要視されていると報告している。テーマに関しては、「歴史・伝統」、「生活・行動様式」を扱っているものが大部分を占めており、題材全般に関しては、学年によって、それぞれ種類、頻度、扱われ方が異なると指摘している。同様に、相知（2001）は、2002年度版の中学校英語教科書の全7種類、計21冊を「多様なものの見方」「生活や文化の理解」「国際社会に生きる日本人」の三つの観点から検証している。その結果から、各教科書とも「多様なものの見方」に関しては、「生徒の発達段階、興味や関心について十分配慮しつつ」題材の選定がなされていると述べている。次に、「生活や文化の理解」の点では、どの教科書も多くの地域を扱ってはいるが、単に社会的知識に終わってしまいかねないものもあると指摘している。「国際社会に生きる日本人」においては、伝記的な人物紹介ではなく、その生き方を平易な英文でまとめているなど特色も見られるが、特に異文化理解についての題材の扱いとしては、さらに工夫がほしいと主張している。また、長谷川（2002）では、国際理解と国際協調の観点から2002年度版の題材の取扱いを分析した結果、様々な地域や風俗習慣の話題が自然に教科書の本文に導入されるように、登場人物の国籍を多様化するとともに英語圏以外の国々の生活文化・風俗習慣などの題材をなお一層取り上げる必要性を述べている。

このような先行研究を踏まえ、以下では、2012年度版中学校新英語教科書における題材の取扱い状況を分析した上で、2002年度版の題材の取扱い状況と比較しながら考察する。

## 5. 中学校英語教科書における題材の取扱い

本稿では、2002年度版（1998年版学習指導要領に基づく）と2012年度版（2008年版学習指導要領に基づく）の中学校英語教科書における題材の取扱いについて、次の5項目から検討する。

- 1) 主な登場人物の国籍
- 2) 英語圏以外の国の件数とその内訳
- 3) 英語圏を含んだ国々の主な内容
- 4) 日本の地名と日本事象
- 5) 本文以外の文化情報

2002年度版と2012年度版の中学校英語教科書は以下の6種類である。

<i>New Horizon English Course</i>	東京書籍（以下NHと表記）
<i>New Crown English Series</i>	三省堂（以下NCと表記）
<i>Sunshine English Course</i>	開隆堂（以下SSと表記）

<i>Total English New Edition</i>	学校図書 (以下 <i>TE</i> と表記)
<i>One World English Course</i>	教育出版 (以下 <i>OW</i> と表記)
<i>Columbus 21 English Course</i>	光村図書 (以下 <i>CO</i> と表記)

なお、2002年度版には、*Total English* から分離した *Total active comm.* 秀文館という教科書があったが、採択数が少ないことによりそれ以後刊行されなくなったため比較の対象から除外した。

### 5.1. 主な登場人物の国籍

表1ならびに表2は、2002年度版と2012年度版の中学1年から中学3年までの全18種類の教科書に登場する主な人物の国籍及び人数の割合、合計を示したものである。なお、主な登場人物とは、ほぼ全ての課に登場している人物のことである。主な登場人物の国籍を調査した理由は、ある国籍の人物が登場することにより、その出身国の生活や文化が教科書の本文で紹介されるため、どんな国が題材として取り上げられているかを知ることができるためである。つまり、主な登場人物の国籍の観点からどこの国が教科書の題材として多く扱われているか、さらに主な登場人物がいないことで題材として扱われていない国はどこかを調べたいと思ったからである。ただし、この調査は主な登場人物の国籍と人数に限定しているため、登場人物の出身国が題材として取り扱われている場合でも、その国に関する記述の行数やページ数などの量的な内容は調べていないので、結果に限界があるのは否めない。

表1について概観する。教科書別の特徴としては、*CO*が、英語圏、アジア、中南米、アフリカ、ヨーロッパと最も多くの地域出身者を登場させている一方、*TE*は、登場人物数はわずか3名で、その国籍の種類もアメリカ人とメキシコ人のみといったことからわかるように、教科書によって国籍の多様性と登場人物数にばらつきがあることがあげられる。国別では、アメリカ出身者が全ての教科書に登場し、5つの教科書でカナダ出身者、4つの教科書でオーストラリア出身者が登場している。英語圏以外では、中国とブラジルの出身者がそれぞれ3つの教科書で登場している。

表1：2002年度版教科書の中の主な登場人物の国籍の割合（日本国籍を除く）単位 / %（人）

国籍 教科書	アメリカ	カナダ	イギリス	オーストラリア	ニュージーランド	中国	韓国	シンガポール	バン格拉デシュ	ブラジル	メキシコ	ケニア	ガーナ	スペイン	登場人物の合計	国籍の合計
CO	30	5	10	15	5		15	5		5			5	5	20	10
NC	33	7	13	7		20						20			15	6
NH	33	11		45					11						9	4
OW	37	9				9	18			18	9				11	6
SS	36	8	16	16	8	8				8					13	7
TE	66										34				3	2

表2：2012年度版教科書の中の主な登場人物の国籍の割合（日本国籍を除く）単位 / %（人）

国籍 教科書	アメリカ	カナダ	イギリス	オーストラリア	ドイツ	中国	韓国	シンガポール	インド	カンボジア	ガーナ	登場人物の合計	国籍の合計
CO	50			6		6	26			6	6	15	6
NC	20		20	20		20			20			5	5
NH	28	28		16				28				7	4
OW	25			25			25	25				4	4
SS	26	16	26	16					16			7	5
TE	25	25			25				25			4	4

次に表2について略述する。教科書別では、2002年度版同様、COが最も多くの国籍の人物を登場させており、SS、NCと続く。COは、英語圏、アジア、アフリカの出身者に限定され、中南米及びヨーロッパ出身者がいなくなった。それに対してTEは、中南米出身者のかわりに、ヨーロッパ及びアジア出身者を登場させている。他の4つの教科書は、英語圏とアジアの地域出身者のみの構成である。従って、全ての教科書で英語圏とアジアの地域出身者は登場していることになる。国別では、2002年度版同様、アメリカ出身者が全ての教科書に登場している。登場人物の国籍数に関しては、3つほど減少している。

ここで、2002年度版と2012年度版との共通点と相違点をまとめる。教科書別の共通点として、COは、6種類の教科書の中で、いろいろな国籍の人物を最も多く登場させている。

国別では、アメリカ出身者が全ての教科書に登場していることから明らかなように、英語圏出身の登場人物が中心の教科書が主流であり、その次にアジア出身者の登場人物が多いこともほぼ共通している。反対に、ロシアや中東出身の登場人物は皆無で、中南米やアフリカ出身の登場人物の存在は教科書によって異なることも共通点としてあげられる。相違点としては、2012年度版においては中南米出身の登場人物がいなくなったことや登場人物の国籍数が3つほど減ったことである。学習指導要領の教材の配慮事項で指摘しているように、「広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと」を考慮すると、教科書の登場人物は、生徒の英語学習への動機づけを高める可能性が考えられる。題材として教科書の本文の中で、ある国の生活や文化を単に紹介するよりも、例えば、学習する生徒と同学年の外国出身の登場人物が出身国の日常生活や風俗習慣を説明することで、題材が生徒にとってさらに魅力的なものとなるであろう。そういった意味でも、教科書の主な登場人物の国籍を英語圏中心からより多様化し、英語圏以外の様々な地域や風俗習慣の話題が自然に教科書の本文に導入されることを目指す必要があると思われる。

## 5.2. 英語圏以外の国の件数とその内訳

表3は、教科書に取り上げられている英語圏以外の国の件数とその内訳を示している。( )内の数字は件数を示し、( )以外の数字は各地域ごとの合計を表す。「その他」とは、アジア、アフリカ、中南米、中東、ヨーロッパ以外の地域及び環境、歴史、自然科学などの話題がある特定の地域に限定しているのではなく、地球全体に及ぶことを指している。英語圏以外の国の件数に関しては、その国について扱っている話題の件数のことであり、その国について扱っている単元(課)の件数ではない。件数を単元の数として取り扱えば異なった結果が予想される。厳密にいうと件数の質について精査する必要があると思われるが、ここでは一つの見方として考えた。2002年度版と2012年度版における英語圏以外の国の総件数の推移を見ると、2012年度版では、アジアとヨーロッパ及び「その他」は増加しているものの、アフリカ、中南米は微減ではあるが減少し、中東に至っては全く取り扱われなくなっている。このような状況に関して、2つの理由が考えられる。第一は、英語教科書において題材よりも言語活動が重視されたという可能性である。2012年度版の基となっている2008年版中学校学習指導要領の特色の一つとしてあげられるのが、言語活動の充実である。確かに教科書で扱う語彙数は増えたが、語彙の増加は、主として音声や文法事項などの言語材料の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を育成するためのものとして扱われ、題材選択の幅を広げることには反映されなかったのではないかとこのことである。第二は、取り扱われる題材の内容が変化したという可能性である。先に述べた言語活動の充実とも関連するが、平和や自然、地球の環境問題など直接言語活動に役立つような題材選択が重視されたのではないかとこのことである。言い換えれば、生徒の問題意識を高めるような身近で現代的なテーマを題材として重要視した結果、政治・経済・



文化面で日本とあまり密接な接点のない国々の風俗習慣などの事象を扱う題材が減少したのではないかと推察される。しかし、国際理解の観点からは、国際政治で話題に上がる中東やアフリカなどの生活や文化についても生徒の視野を広げるものと位置づければ、教科書の題材として取り上げる必要はあるのではないだろうか。

表3：教科書に取り上げられている英語圏以外の国の件数とその内訳

地域	2002年度版	2012年度版
アジア	31件	38件
	中国(6) 韓国(5) マレーシア(4) シンガポール(3) 香港(2) インド(2) ネパール(2) インドネシア(2) スリランカ(1) ボルネオ(1) バングラデシュ(1) カンボジア(1) フィリピン(1)	インド(8) 韓国(7) 中国(6) シンガポール(4) カンボジア(4) ベトナム(2) タイ(2) インドネシア(2) モンゴル(1) ネパール(1) ブータン(1)
アフリカ	8件	6件
	ケニア(3) エジプト(2) ニカラグア(1) マダガスカル(1) スーダン(1)	ケニア(2) ガーナ(1) スーダン(1) タンザニア(1) マラウィ(1)
中南米	10件	9件
	ブラジル(4) 南アメリカ(4) ペルー(1) 西インド諸島(1)	チリ(2) ペルー(2) メキシコ(2) ブラジル(1) アルゼンチン(1) コスタリカ(1)
中東	3件	0件
	サウジアラビア(1) イラク(1) イスラエル(1)	
ヨーロッパ	10件	17件
	ロシア(4) スペイン(3) ポルトガル(1) オランダ(1) オーストリア(1)	フィンランド(4) ドイツ(2) スウェーデン(2) マケドニア(2) オーストリア(1) オランダ(1) スペイン(1) リトアニア(1) ブルガリア(1) ギリシア(1) ルーマニア(1)
その他	1件	16件
	南極大陸(1)	地球の環境(エネルギーを含む)(11) 地球上の動物(2) 地球の歴史(1) 地球の自然(1) ツバル(1)

表4: 教科書に取り上げられている英語圏を含んだ国々の主な内容とその件数

地域	2002年度版	2012年度版
英語圏及びヨーロッパ	22件	29件
	ロンドン市内観光 (4) オーストラリアの紹介 (6) ニューヨークの観光 (3) カナダの言葉とスポーツ (3) アメリカの紹介 (2) ワシントンの観光 (1) サンフランシスコ・ロサンゼルス観光 (1) 英仏海峡トンネル・ネッシー・ウェールズ民族 (1) ニュージーランドの自然 (1)	アメリカの中学校生活 (5) サンフランシスコ紹介 (3) オーストラリア紹介 (3) サンフランシスコ紹介 (2) アメリカのホームステイ (2) オーストラリアのホームステイ (2) フィンランド紹介 (2) アメリカ文化 (クリスマス・新年) 紹介 (1) ハワイ文化紹介 (1) イギリス文化 (バクバイブ) 紹介 (1) ワシントンD.C. 紹介 (1) ニューヨークのセントラルパーク紹介 (1) イギリス行きの機内 (1) イギリス紹介 (1) ロンドン紹介 (1) ロンドンのホームステイ (1) ニュージーランド紹介 (1)
アジア	16件	86件
	シンガポールの歴史 (3) インドの言葉 (2) 中国の文化の影響 (1) 韓国の文化の影響 (1) 中国の紹介 (1) 日本と中国の祭り (1) 日本と韓国の習慣の違い (1) モンゴルの人々の生活 (1) 香港の観光 (1) 韓国とベトナムの「衣」の文化 (1) インドネシアの歴史 (1) ボルネオの自然破壊 (1) カンボジアの文化の影響 (1)	日本の中学校生活 (27) 日本文化 (マンガ・アニメ・映画・けん玉・折紙) 紹介 (6) インターシップ (4) スピーチ (白川郷・好きなもの・学校のチャイムの歴史) (4) 日本の修学旅行 (京都・奈良) (3) 日本の中学生の趣味 (3) 日本のお正月の過ごし方 (初詣・年始のあいさつ) (3) 校外学習 (盲導犬体験教室) (2) 日本紹介 (2) 英語で落語 (2) 日本の実話の英訳 (2) 日本の食文化の紹介 (2) 日本の夏祭り紹介 (2) 沖縄紹介 (2) 日本の伝統芸能紹介 (1) 日本の四季 (1) 日本の火山の紹介 (1) 日本のスポーツ (相撲・柔道) 紹介 (1) 広島原爆 (1) 浅草紹介 (1) 京都紹介 (1) 松山紹介 (1) 調べ学習 (学校) (1) 中学生の意見 (1) 英語を学ぶ意義 (1) デイバート (弁当or給食) (1) インタビュー (日本の印象) (1) 日本の中華街訪問 (1) 日韓の文化交流 (1) 韓国の中学校生活 (1) カンボジアの中学校生活 (1) 国際フードフェスティバル (インド・韓国) (1) 韓国紹介 (1) インド紹介 (1) シンガポール紹介 (1) ブータン紹介 (1)
アフリカ	5件	0件
	ケニアの紹介 (2) アフリカへの支援 (2) エジプトの観光 (1)	
中東	1件	0件
	中東(カディフ)での自然破壊 (1)	
中南米	2件	1件
	インカ文明の遺跡 (1) ブラジルのサッカー (1)	メキシコの実話の英訳 (1)
その他	0件	57件
		環境問題 (自然保護・温暖化対策・リサイクル活動・エネルギー資源の開発) (9) 将来の夢 (4) 家族紹介 (3) 世界の朝食 (2) セラピードッグ (1) 動物救護 (1) 手話 (1) 点字 (1) ユニバーサルデザイン (1) イルカの物語 (1) 日本の小説の英訳 (1) ガリバー旅行記 (1) アンネ・フランクの日記 (1) 世界遺産 (1) 世界の町 (1) 世界の祭り (1) 世界の家 (1) 世界の民族服 (1) 世界のジェスチャー (1) 世界の遊び (1) 地球の歴史 (1) 好きな言葉 (1) キング牧師の功績 (1) マザーテレサの功績 (1) スティービー・ワンダーの功績 (1) ジャッキー・ロビンソン (野球選手) の紹介 (1) 山本敏晴 (国際協力師) の紹介 (1) 言葉のおもしろさ (1) フェアトレード・チョココレート (1) 外国人力士のエピソード (1) 電子辞書の賛否 (1) 夏休みの計画 (1) ロボットコンテスト (1) ロボットとの共存 (1) ハロウィンパーティー (1) 誕生日パーティー (1) クリスマスコンサート (1) 慈善活動 (1) 車いすバスケットボール (1) 地雷のない世界 (1) ニュース放送 (竜巻・コマーシャル・スポーツ) とウェブサイト (1) 市民通訳ボランティア (1) プレゼンテーション (世界の山・ミュージシャン・最大の動物) (1)

### 5.3. 英語圏を含んだ国々の主な内容

表4は、英語圏を含んだ国々の主な内容とその件数をそれぞれ地域別にまとめたものである。主な内容とは、例えばその国の日常生活、風俗習慣、地理、歴史などの文化理解を目標にし、教科書の本文で扱われている題材を指す。表3と同様に、( )内の数字は件数を示し、( )以外の数字は各地域ごとの合計を表している。表4からアジア、特に日本を題材にしたものが急激に増えていることがわかる。日本文化の紹介にとどまらず、生徒にとって身近な中学校生活を題材として扱っている件数が非常に多い。これは、「生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げる」といった題材についての学習指導要領の規定に合致するものと言えよう。英語圏及びヨーロッパでも2012年度版の件数は、2002年度版に比べて増加しているが、これは取り扱われる英語圏の国が増えたことと教科書間でより広く題材が選択されたことによるものと考えられる。

### 5.4. 日本の地名と日本事象

表5及び表6は、教科書に取り上げられている日本の地名と日本事象をまとめたものである。日本の地名は、教科書中の練習問題や課題に取り組む際に必要な単語として導入されているものが多いが、2002年度版比べると、2012年度版は約2倍ほど増えている。同様に、日本事象も2012年度版は、2002年度版と比較して増加している。特に、世界遺産と修学旅行関連の日本事象が取り上げられたことが大きい。教科書の日本の伝統芸能紹介のページなどで広く扱われている日本の地名と日本事象は、今後ますます教科書の題材に取り上げられることが予想される。国際理解の前提となる相互理解をはかるためには、自国の文化を再認識し、それを積極的に発信していくことも大切である。そういった意味では、日本の事象についての題材が重視されていることは、歓迎すべきことであろう。

表5:教科書に取り上げられている日本の地名

2002年度版	利尻島、稚内、富良野、釧路、根室、旭川、札幌、函館、北海道、青森、弘前、秋田、盛岡、山形、仙台、郡山、那須、中禅寺湖、水戸、埼玉、千葉、成田、東京、東京タワー、東京ディズニーランド、羽田、上野、浅草、上野公園、鎌倉、新潟、富士山、長野、松本、金沢、名古屋、岐阜、琵琶湖、京都、京都タワー、奈良、大阪、関西空港、神戸、淡路島、岡山、広島、高松、福岡、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄、那覇、石垣島
2012年度版	北海道、ニセコ、大雪山、旭川、石狩川、札幌、知床、阿寒湖、釧路湿原、青森、弘前、秋田、十和田湖、岩手、岩手山、最上川、天竜川、岩木山、田沢湖、仙台、福島、郡山、磐梯山、新潟、山形、利根川、金沢、兼六園、長野、上高地、松本城、信濃川、諏訪湖、浅間山、鬼押し出し、蓼科、南アルプス、大井川、日光、華厳の滝、中禅寺湖、群馬、埼玉、大宮、東京、東京タワー、東京ドーム、銀座、新宿、中野、渋谷、原宿、町田、浅草、浅草寺、東京ディズニーランド、国立競技場、国技館、千葉、柏、横浜、新横浜、八景島、鎌倉、江の島水族館、箱根、平塚、小田原、芦ノ湖、真鶴、富士山、静岡、浜名湖、長岡、名古屋、名古屋城、岐阜、白川村、琵琶湖、伊勢神宮、京都、嵐山、金閣寺、銀閣寺、竜安寺、薬師寺、延暦寺、奈良、奈良国立博物館、東大寺、法隆寺、大阪、大阪城、豊中、兵庫、神戸、姫路、姫路城、香川、淡路島、高知、四万十川、松山、松山城、岡山、大原美術館、広島、平和公園、宮島、新尾道、島根、福岡、博多、福岡ドーム、下関、長崎、熊本、阿蘇山、大分、鹿児島、桜島、沖縄、那覇、ひめゆりの塔、首里城、屋久島、竹富島、石垣島

表6: 教科書に取り上げられている日本事象

<p>2002 年度版</p>	<p>〈時代〉 江戸時代、明治時代 〈修学旅行〉 中尊寺、法隆寺、奈良の大仏 〈風物習慣〉 お正月、おせち、お年玉、ひな祭り、花見、ゴールデンウィーク、子どもの日、こいのぼり、七夕、七五三、お盆、盆踊り、阿波踊り、雪まつり、山笠祭、三社祭、七夕祭、大文字、神輿、鼓、お神楽、横笛、三味線、俳句、将棋、けん玉、こま、おはじき、竹馬、折り紙、すごろく、竹とんぼ、羽子板、蹴鞠、相撲、柔道、剣道、空手、招き猫、こけし、風鈴、箸置き、湯呑み、茶碗、風呂敷、着物、浴衣、はっぴ、扇子、竹刀、蚊取り線香、勸進帳、絵馬、文楽、歌舞伎、能、落語、日比谷座、布団、座布団、床の間、畳、こたつ、びょうぶ、漢字、ひらがな、かな、カラオケ 〈人物〉 聖武天皇、聖徳太子、藤原清衡、足利義政、岸田劉生、夏目漱石、向井千秋、田部井淳子、緒方貞子 〈物語・歌〉 坊ちゃん、桃太郎、浦島太郎、金太郎、かぐや姫、夕鶴、七人の侍、寅さん、ドラえもん、「桜」 〈食べ物〉 お好み焼き、おはぎ、おせんべい、すき焼き、白滝、たこ焼き、焼き鳥、みそ汁、納豆、豆腐、お寿司、とろ、たこ、天ぷら、おにぎり、海苔、梅干し、醤油、餅、赤飯、ちらし寿司、かまぼこ、うどん、刺し身、昆布巻き、栗きんとん、そば、ざるそば、やきそば、ちゃんこ、おでん、大根、鮭、鰹、鯉 〈その他〉 小田急線、長野オリンピック、塾</p>
<p>2012 年度版</p>	<p>〈時代〉 飛鳥時代、江戸時代 〈修学旅行〉 旭山動物園、弘前城、華厳の滝、中禅寺湖、兼六園、東京タワー、ナゴヤドーム、東大寺、大仏殿、奈良国立博物館、厳島神社、長崎平和公園、美ら海水族館、大仙院、平安神宮、清水寺、嵯峨野、金閣寺、銀閣寺、ひめゆりの塔、首里城、春日大社、奈良公園、法隆寺、五重塔、金堂、興福寺、東京ディズニーランド、上野動物園 〈風物習慣〉 元旦、初詣、書き初め、門松、お正月、お年玉、カルタとり、獅子舞、ひな祭り、節分、花見、ゴールデンウィーク、立春、子どもの日、みどりの日、こいのぼり、七夕、七五三、お盆、盆踊り、提灯、火花、阿波踊り、雪まつり、山笠祭、三社祭、七夕祭、天の川、大文字、神輿、太鼓、お神楽、横笛、三味線、尺八、お月見、俳句、将棋、けん玉、じゃんけん、こま、おはじき、竹馬、人力車、折り紙、折り鶴、千羽鶴、すごろく、竹とんぼ、羽子板、蹴鞠、相撲、柔道、剣道、空手、招き猫、こけし、風鈴、箸置き、茶、生け花、茶道、点前、茶室、湯呑み、茶碗、風呂敷、下駄、着物、温泉、浴衣、はっぴ、扇子、竹刀、蚊取り線香、勸進帳、絵馬、文楽、歌舞伎、能、落語、日比谷座、布団、座布団、掛け軸、床の間、座禅、障子、畳、いろり、こたつ、火鉢、屏風、漢字、ひらがな、かな、カラオケ、昔話、漫画、アニメ 〈人物〉 聖徳太子、紫式部、足利義満、足利義政、徳川将軍、夏目漱石、川端康成、志賀直哉、野口英世、樋口一葉、福沢諭吉、手塚治虫、イチロー選手、桂かい枝（落語家）、原田美砂（帽子デザイナー）、林英哲（和太鼓奏者）、星野道夫（写真家）西岡京治（ブータン王国で、国際協力に貢献）白石よしあき（回転ずしの創始者）、SMAP、福山雅治 〈物語・歌〉 坊ちゃん、織り姫と彦星、桃太郎、浦島太郎、一寸法師、金太郎、かぐや姫、夕鶴、七人の侍、寅さん、ドラえもん、江戸川コナン、「桜」「雪国」「ライオンハート」演歌 〈食べ物〉 おせち料理、お雑煮、お好み焼き、おはぎ、おせんべい、すき焼き、白滝、たこ焼き、焼き鳥、みそ汁、茶碗蒸し、納豆、豆腐、お寿司、駅弁、とろ、たこ、天ぷら、おにぎり、とんかつ、海苔、梅干し、醤油、だし、調味料、餅、小豆、赤飯、ちらし寿司、かつば巻き、かまぼこ、うどん、刺し身、昆布巻き、栗きんとん、羊かん、そば、ざるそば、やきそば、ちゃんこ、おでん、大根、鮭、鰹、鯉、いくら、うに 〈世界遺産〉 原爆ドーム、知床、日光、屋久島、白神山地、姫路城、石見銀山 〈その他〉 平城京、平安京、斑鳩、鳥獣戯画、塾</p>

## 5.5. 本文以外の文化情報

表7と表8は、教科書の巻頭と巻末にある本文以外の文化情報を提示したものである。表7は、2002年度版の巻頭・巻末の文化情報であるが、小学校に「外国語活動」が導入されたことにより、これらの学習内容は小学校の高学年に移行され、2012年度版では、表8に見られるように、より生徒の発達段階に沿った身近な話題を提供している。ここは、各教科書の創意工夫が見られるところだが、全体的に教科書の分量が増えたことにより、教科書の本文以外の付録の部分も増え、中には教科横断的な内容を盛り込んだ教科書も見受けられる。教材選択の幅を広げ、教科書の一層の改善を促すために、本文以外の文化情報にもさらなる充実が求められる。

表7: 教科書の巻頭・巻末の文化情報

2002年度版

	学年	巻 頭	巻 末
CO	1	World Map (英語圏の国々と時差)	Signs (英語で書かれた生活に身近な標識)
	2	World Map (アジアの市場)	Signs (街頭で見られる看板や標識)
	3	World Map (さまざまな国の遺跡)	Signs (公園の入り口や道路で見られる看板)
NC	1	世界の言語 (東アジア・南アジア・ヨーロッパ)	各国の新聞
	2	世界の言語 (オセアニア・アフリカ)	手話
	3	世界の言語 (西アジア・北アメリカ)	点字
NH	1	世界のことばで「こんにちは」と「ありがとう」	対話のマナー 対話のテクニック
	2	世界の子どもたち	
	3	世界のすまい	
OW	1	世界のこんにちは	
	2	Lifestyles around the World	
	3	Festivals around the World	
SS	1	Hello. 世界の仲間たち 世界の言語についてのクイズ	日本の祝日 Body Language
	2		
	3		
TE	1	世界の国からこんにちは Hello, friends!	Body Language
	2	英語圏の行事 Hello, friends!	世界の言葉と国
	3	Hello, friends!	英語で紹介—日本の行事

表8:教科書の巻頭・巻末の文化情報

2012年度版

	学年	巻 頭	巻 末
CO	1	詩の英訳・世界の笑顔と「こんにちは」ローマ字(ヘボン式)	アルファベット・英語の遊び歌
	2	詩の英訳・ニューヨークとソウルの風景	教室英語・英語の看板や標識
	3	詩の英訳・温暖化	教室英語・日本事情 (落語・漫画など)
NC	1	世界の学校・歌	歌・マザーグース
	2	世界の人たちの行動・歌	歌・日常生活の中の英語
	3	世界の言葉・歌	歌・心に留めておく名句
NH	1	世界の言葉で「こんにちは」と「ありがとう」サンフランシスコ紹介	ローマ字の書き方・1日を英語で表現 日英のジェスチャー紹介・伝えたい一言表現
	2	ニュージーランド紹介・ハリウッド紹介・スピルバーグの映画紹介・人間のために働く犬	英語のことわざ・会話の仕方
	3	アフリカ紹介・温暖化防止・外国を舞台にした物語	
OW	1	世界の風景	学校関連の単語紹介
	2	世界の自然(環境問題)と文化探検(歴史遺産・学校生活・行事) 科学技術探検(発明品)	歌・日本紹介の対話
	3	世界の風景と人物紹介	英語で日本紹介 絵で見る前置詞の使い方
SS	1	世界の風景と風物と歴史の紹介	学校生活と1日を英語で表現
	2	世界の風景と風物と人物紹介	日本の祝日・学校行事・町案内
	3	世界の環境問題と文化と人物	学校生活と職業の単語
TE	1	自己紹介とあいさつ	アルファベットの活字体とブロック体・色の名前
	2	日常の英語表現・世界の風景と人物紹介	形の名前・日米のジェスチャー
	3	伝えたい一言表現・世界の風景と人物紹介	英語で日本紹介・伝えたい一言表現

## 6. おわりに

本稿では、2012年度版中学校新英語教科書における題材の取扱い状況を分析した上で、2002年度版英語教科書における題材の取扱い状況と比較した。教科書の題材は、言語材料や言語活動とともに教科書の大切な要素である。題材から生徒の英語学習意欲を高めるということもあり得る。国際平和・共生の精神・異文化対応能力の育成などにつながる題材は今後より重要性が増すであろう。その意味でも、英語圏の題材だけでなく、ロシアや中東など今まで取り扱われることのなかった国々の事象なども今後題材として取り上げる必要があるように思われる。

## 注

\* 本稿は、「新版中学校外国語（英語）科用教科書の題材の取扱いの分析」と題して、日本教材学会第24回研究発表大会において口頭発表した際に配布した資料をもとに加筆したものである。

## 参考文献

- McDonough, Jo and Christopher Shaw. 1993. *Materials and Methods in ELT*. Blackwell.
- McGrath, Ian. 2002. *Materials Evaluation and Design for Language Teaching*. Edinburgh University Press.
- 青木信之 他. 2000. 「中学校英語教科書における文化題材に関する一考察—談話分析的手法を用いて」中国地区英語教育学会『研究紀要』No.30.
- 小串雅則. 2011. 『英語検定教科書 制度、教材、そして活用』東京：三省堂.
- 相知美佐. 2001. 「「道具としての外国語」と異文化理解」『英語教育』10月号. 東京：大修館.
- 長谷川淳一. 2002. 「国際理解と国際協調の観点から見た新中学校英語教科書の題材の取扱い」日本教材学会『教材学研究』第13巻 pp.102-105.
- 文部省. 1958. 『中学校学習指導要領』大蔵省印刷局.
- 文部省. 1969. 『中学校学習指導要領』大蔵省印刷局.
- 文部省. 1977. 『中学校学習指導要領』大蔵省印刷局.
- 文部省. 1989. 『中学校学習指導要領』大蔵省印刷局.
- 文部省. 1998. 『中学校学習指導要領』大蔵省印刷局.
- 文部省. 1999. 『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説—外国語編—』東京：東京書籍.
- 文部科学省. 2008. 『中学校学習指導要領（平成20年9月）解説—外国語編—』東京：開隆堂.

## 参考資料

- 笠島準一他. 2012. 『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1』東京：東京書籍.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 2』東京：東京書籍.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 3』東京：東京書籍.
- 高橋貞雄他. 2012. 『NEW CROWN 1 ENGLISH SERIES』東京：三省堂.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『NEW CROWN 2 ENGLISH SERIES』東京：三省堂.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『NEW CROWN 3 ENGLISH SERIES』東京：三省堂.
- 東後勝明他. 2012. 『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE 1』東京：光村図書.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE 2』東京：光村図書.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE 3』東京：光村図書.
- 新里眞男他. 2012. 『SUNSHINE ENGLISH COURSE 1』東京：開隆堂.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『SUNSHINE ENGLISH COURSE 2』東京：開隆堂.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『SUNSHINE ENGLISH COURSE 3』東京：開隆堂.
- 松本茂他. 2012. 『ONE WORLD ENGLISH COURSE 1』東京：教育出版.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『ONE WORLD ENGLISH COURSE 2』東京：教育出版.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『ONE WORLD ENGLISH COURSE 3』東京：教育出版.
- 矢田裕士他. 2012. 『TOTAL ENGLISH 1 NEW EDITION』東京：学校図書.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『TOTAL ENGLISH 2 NEW EDITION』東京：学校図書.
- \_\_\_\_\_. 2012. 『TOTAL ENGLISH 3 NEW EDITION』東京：学校図書.